

会 報

新春特集

《第351号》

目 次

- | | | |
|--------------------------------|-------------|------|
| 1 新年ご挨拶 | 会長 瀬戸本 淳 | 1頁 |
| | 役員 一 同 | 2頁 |
| 2 平成27年新春メッセージ
～安全安心と元気の創造～ | 兵庫県知事 井戸 敏三 | 3頁 |
| 3 月例会報告「平安の色彩と紅葉を訪ねて」 | | 4～5頁 |
| 4 事務局便り | | 5頁 |

平成27年1月1日



次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人**兵庫県建築会**



新年ご挨拶

会長 瀬戸本 淳

明けましておめでとうございます。

兵庫県建築会及び関係団体の皆様におかれましては、益々のご発展、ご活躍のご様子、心からお慶び申し上げます。

ご存知のように、あの第二次世界大戦の中、各種の建設資材が統制下にあった時代において、資材の円滑な流通と、代用資材の研究・開発を目的として、兵庫県の指導のもと、建築各界の指導的立場にある方々を中心に会が形づくられました。そして戦災復興の兆しがレールに乗ろうとしている昭和 22 年 3 月に建築会が設立されました。今年で 68 年を迎えます。

設立以来、先輩諸兄の皆様は官民協力により、明日の建築に向かって街づくり、住まいづくりの研究と談話により、情報交換の場として活動を続け、建築界に大きな功績を残してこられました。特に阪神・淡路大震災の発生以降、一貫して兵庫・神戸の復旧・復興や、豊かな交流が広がる地域づくりに多大な貢献をされてこられました。心より深い敬意と尊敬の意を表したいと存じます。また関係各位のご努力に感謝申し上げます。

近年、建築会は環境共生・地球環境問題をテーマに活動してまいりました。戦争、公害、大気汚染、原発問題、資源エネルギー問題、地球温暖化、ヒートアイランド現象、はげしい気象、そして災害、少子高齢化、諸物価高騰、やがて来る食料危機等々により、人々の生活の質が低下していくのではないかと危惧されるところです。人々にとってより快適な生活の場と手段を提供することが目的の建築は、このような住まう環境の変化に積極的に関わっていくことになります。そして次の社会をどう形づくっていくのかを問われることになります。

最悪の事態を回避して、これからの明るい社会を創っていくために、いかに人々の生活の夢を活性化させるか、人々の多様な生活のあり方、容易に変化する生活のあり方など、今こそみんなで最善の策を見つけなければならない時期に来ていると思います。たとえ小さくても、ひとつひとつの建築は複層する文化的プロジェクトです。日本において、とても貴重な存在である、この建築会のアーキテクチャル・ヒューマンネットワークの連携が、諸問題解決のための手法を生み出すのに大いに役立つことと考えています。ぜひ皆様と共にこれからの社会についての考察と構築を共有して、さらに深めていこうではありませんか。

今後も一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

2015

旧年中は当会の事業運営にあたりまして、会員及び関係者の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年もなお一層のご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

名譽顧問	竹太	村田	章郎	会 長	瀬戸本	淳幸	監 事	石北	田浪	恭 孝	一 郎
顧 問	北大	浪町	敏 邦	副 会 長	川 端	宏 肇	幹 事	勝 西	野 内	孝 聡	一 郎
	浜 小	田 林	有 利	専務理事	棚 石	邦 純		河 立	野 花	茂 潤	高 也
	川 高	嶋 橋	伸 康	理 事	谷 岡	澄 俊		田 小	中 寺	泰 照	充 忍
	山 木	本 村	光 利		中 平	俊 保		矢 瀨	間 尾	武 真	雄 人
					山 大	康 弘		前 川	川	一 郎	夫 郎
					宮 崎	俊 二					

— 役員一同 —



平等院鳳凰堂にて (2014.11.20 見学研修会)



～安全安心と元気の創造～

兵庫県知事 井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

今年、阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えます。未曾有の災害から得た経験と教訓を発信し続けるとともに、復興を成し遂げてきた兵庫の力を、未来に向かって、世界に向かって、一層力強く発揮する好機の年としようではありませんか。

昨年末、国政の新たな体制が固まりました。人口減少の克服や東京一極集中の是正など地方創生の動きの本格化に向けて、今こそ、地方が主導する国づくりを進めるべき時です。兵庫の多様性を生かし、個性ある地域の発展に全力を尽くしていきましょう。

第一は、安全安心の確保。

地震、津波対策のほか、昨年8月の豪雨災害を踏まえた風水害への備えを強化します。また、2025年問題を見据えた福祉・介護・医療の充実や、子どもや高齢者などの課題に対応して、地域社会での暮らしの安心を確保します。

第二は、活力ある地域経済。

グローバル市場でも存在感を示すオンリーワン企業の育成や、産業としての農業の振興、ブランド化を進めます。子育て環境の充実とあわせ、女性、若者、高齢者、障害者など多様な人材の社会参加を促し、人口減少社会の活性化をめざします。

第三は、地域の元気の創造。

山陰海岸ジオパークなど多彩な地域資源を活用した広域観光圏の形成や、交通ネットワーク等社会基盤の整備、淡路花博2015花みどりフェアの開催などにより、地域活性化と内外との交流拡大を図ります。

ふるさとへの愛着と20年間の復興の歩みを基礎に、柔軟な発想と地域主導の行動で直面する課題に挑み、兵庫の新時代を切り拓いていきましょう。

地震乗り越え 未来をめざす ふるさと兵庫 新しき創造

月例会報告

テーマ：平安の色彩と紅葉を訪ねて
と き：平成26年11月20日

第434回月例会は、見学研修会併催です。今回は、11月20日(木)「平安の色彩と紅葉を訪ねて」として宇治、伏見、京都市東山区を訪れました。

参加者20名、8時45分全員集合で、時間通りのスタート。吹田の休憩で後部座席はサロンに模様替え、早くも宴たけなわの様相を呈しつつ、最初の目的地宇治の三室戸寺へ。ネット情報では紅葉は見頃とのことでしたが、時期的なこともありこの目で見るまでは少々心配でしたが…。

◎ 三室戸寺
創建 宝亀元年(約1200年前)
開基 光仁天皇
本尊 千手観音菩薩
西国観音霊場第10番札所

一名「花の寺」と呼ばれ
4月下～5月上旬頃は「つつじ寺」(2万株)
6月「あじさい寺」(1万株)
6月下～8月上旬「蓮の寺」
11月は「三室戸の紅葉」と、四季折々に様相を違え参拝者の目を楽しませてくれます。

境内の紅葉はほぼ見頃を迎えていましたが、朝一もあり入山者はまだ少なくゆっくりと参拝できました。参道沿いの一面のつつじは、春の華やかな装いを想像させてくれます。次は春に訪れたいですね。



三室戸寺
創建伝承に白壁王(後の光仁天皇)が毎夜射す金色の霊光を調査させ、志津川上流で千手観音を発見。その観音像を安置し創建。当初御室戸寺と称す
(Wikipedia)



本堂



参道沿いつつじ園

◎ 平等院鳳凰堂
創建 永承7年(1052年)
開基 藤原頼通、明尊(開山)
本尊 阿弥陀如来

改修を終え、見た目もくっきりと、かつその均整美に感嘆の声を上げつつも、

『はげしい赤に してほしかった 平等院』と、今回の旅行俳句大会で詠まれたのは某会長。鳳凰堂の赤は平安後期復元の「丹土(につち)ベンガラ」、黄土を焼いたもので、量産には向くが赤の鮮明さには劣るようです。

ちなみに、赤色の印象深い平安宮は「赤土ベンガラ」で、最も鮮やかなのは「朱」とのことです。さすが、鋭い感性です。

阿弥陀堂内拝観は2時間待ちで、残念ながらご本尊とは池越しの拝観となりました。



平等院鳳凰堂

摂政藤原道長の別荘「宇治殿」を子の関白頼通が寺院に改めたのが始まり。元を迎れば光源氏のモデル嵯峨源氏「源融」の別荘。
(Wikipedia)

◎ 東福寺
創建 嘉禎(1236年)
開基 円爾 九条道家
本尊 釈迦如来

行程最後は紅葉の名所、東福寺・通天橋です。夕刻近づき、写真では残念ながら半分は日陰となってしまいましたが、片鱗は窺えると思います。境内は、歴史を感じさせるさすがの古木群でした。混雑をかきわけ紅葉を追いかけしていると、集合時間にふと気づくと不信心にも本堂へのお参りを忘れていました。

「信心の 今日忘れて 紅葉狩り」(反省の駄句) 次回は、時間を変えて改めて参拝したいものです。



紅葉名所 通天橋

東福寺

臨済宗東福寺派大本山
九条道家が、高さ5丈(15m)の釈迦像を安置する寺院建立を發願。奈良「東大寺」「興福寺」の二大寺から1字ずつ取ったもの。
(Wikipedia)

◎ 見学研修会俳句大会

帰りのバスでは、午前中に詠んでもらった俳句の選評が行われ、全員の投票結果に基づき次の句が会長賞に輝きました。

一席 中島 俊一氏
『鳳凰の 優美な翼 秋陽射し』



鳳凰、本尊
の阿弥陀如
来(拡大し
てご覧さ
い)

二席 石田 邦夫氏
『極楽を 宇治で味わい 秋を知る』
三席 河野 潤也氏
『彩やかな 衣をまとう 宇治の山』



三室戸
寺山麓
の紅葉



三室戸寺枯山水庭園



三室戸寺三
重塔
もとは兵庫
県佐用郡三
日月村の高
蔵寺にあつ
たものを明
治 43 年に
移設
Wikipedia

少し日程早いかと心配した紅葉でしたが、何と見頃を迎えており、天運に感謝でした。

また俄か俳句大会には、22句の作品が寄せられ、会長には賞品のご提供ありがとうございました。

さらに、この度の見学会に際し、多くのご寄贈を頂き、また参加者各位のご協力に感謝申し上げます。

◎行事ご案内

ご予約をよろしくお願いいたします。

- ① 新年会員交流会 (第435回月例会併催)
と き 1月8日(木) 17時30分～
ところ 神戸東急イン
- ② 第436回月例会
と き 2月12日(木) 12時～
ところ 西村屋和味旬彩
テーマ 「ミミズを飼って地球を救おう」
講師 前澤 勝義氏 (ひょうご出前環境教室)
- ③ 第437回月例会
と き 3月12日(木) 12時～
ところ 神戸東急イン
テーマ 「神戸ビエンナーレのテーマ
"スキ。"について」
講 師 華道家 吉田 泰己氏
(神戸ビエンナーレ総合プロデューサー)
- ④ 理事会兼役員会
議題 平成27年度予算案等
詳細はおってお知らせします。

事務局便り

新年明けましておめでとうございます。

今年は『未年』ということで、年賀状の写真をと、昨秋に六甲山牧場へ出向きましたが、合間にちょっと行っていい写真が撮れるはずありません。目指すは仲睦まじい親子の写真、牧場に群れる羊達…。しかし春に生まれた子は既に立派な体になっており(当たり前か)、次に群れなす羊をと、これは三々五々黙々と下を向いて草を食むばかりで絵にならずでした。参考までに柔和な表情の羊を1枚。



年賀状作成にあたって調べると、『群れをなす羊は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味している→穏やかで人情に厚い』のが羊のようで、狙いは結構的を得ていたということですが、撮れなければ意味ないですね。

併せて知ったのは、なぜ『未』の字が充てられるのか、和菓子の『羊羹』は何故『羊』なのか。

ネットの時代は便利なものですが、辞書や本を繰って調べる本当の意味での勉強からはほど遠い手抜きです。

本年も会報へのご支援ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局： 谷 純夫、石井滝実子
電 話： 078-996-2851
E mail: archit-k@axel.ocn.ne.jp